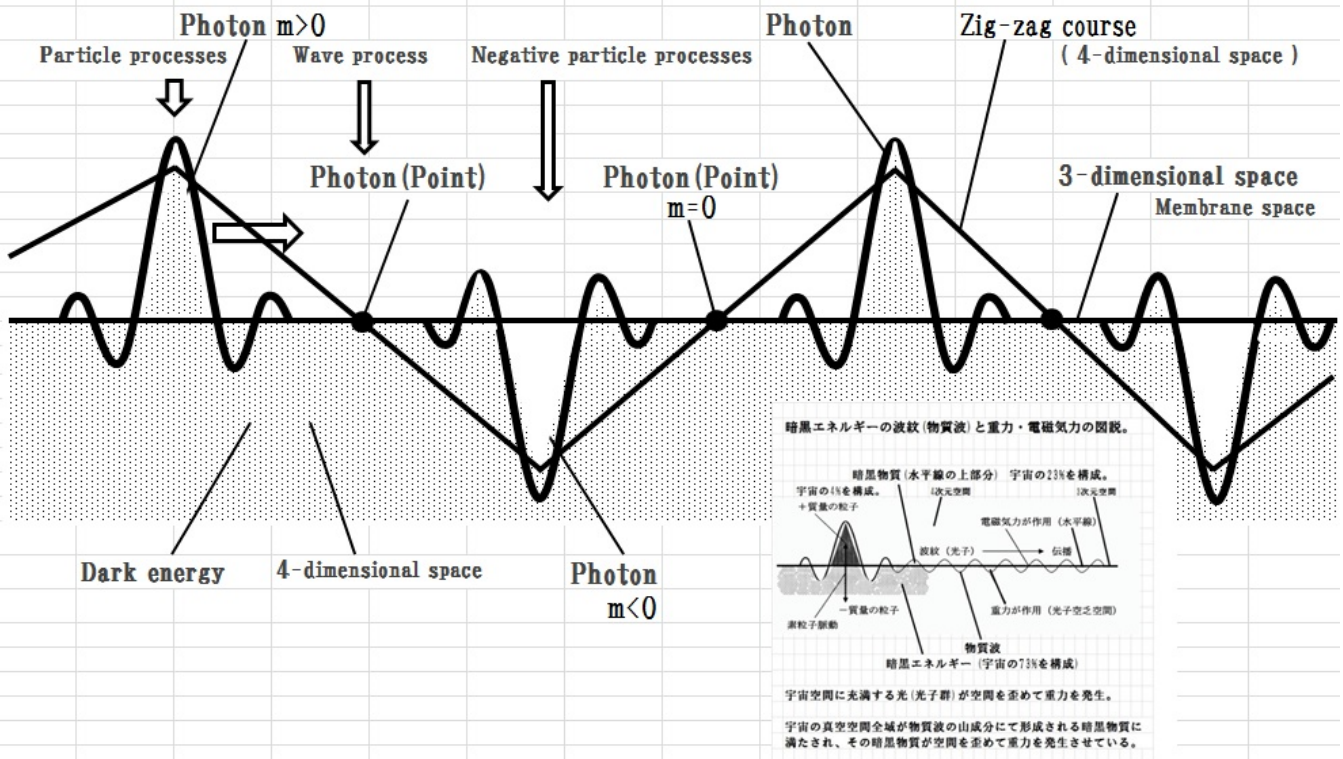


Pulsating hypothesis reveals Higgs mechanism

- * Photons are pulsating and getting forward. In the 4-dimensional space
- * Zigzag progress of photons is same as the Higgs mechanism. Particle acquires mass.
- * Dark energy is equivalent to the Higgs field and the mass of small amplitude of the zig-zag.

Pulsating hypothesis reveals Higgs mechanism

- * Photons are pulsating and getting forward. In the 4-dimensional space
- * Zigzag progress of photons is same as the Higgs mechanism. * Particle acquires mass.
- * Dark energy is equivalent to the Higgs field and the mass of small amplitude of the zig-zag.



A perfect candidate for dark matter

* Carter, Klein space

Research mathematician Carter is four-dimensional space-time of Einstein's general theory of relativity is normal, not how it works in the case of the five-dimensional spacetime. Where he examined the five-dimensional general relativity equations, the equation is found to match the 4-dimensional Einstein gravity equation and Maxwell equations of electromagnetism and mathematically the same. Along with the 4-dimensional gravity and Electromagnetism are mathematically equivalent with 5-dimensional gravity.

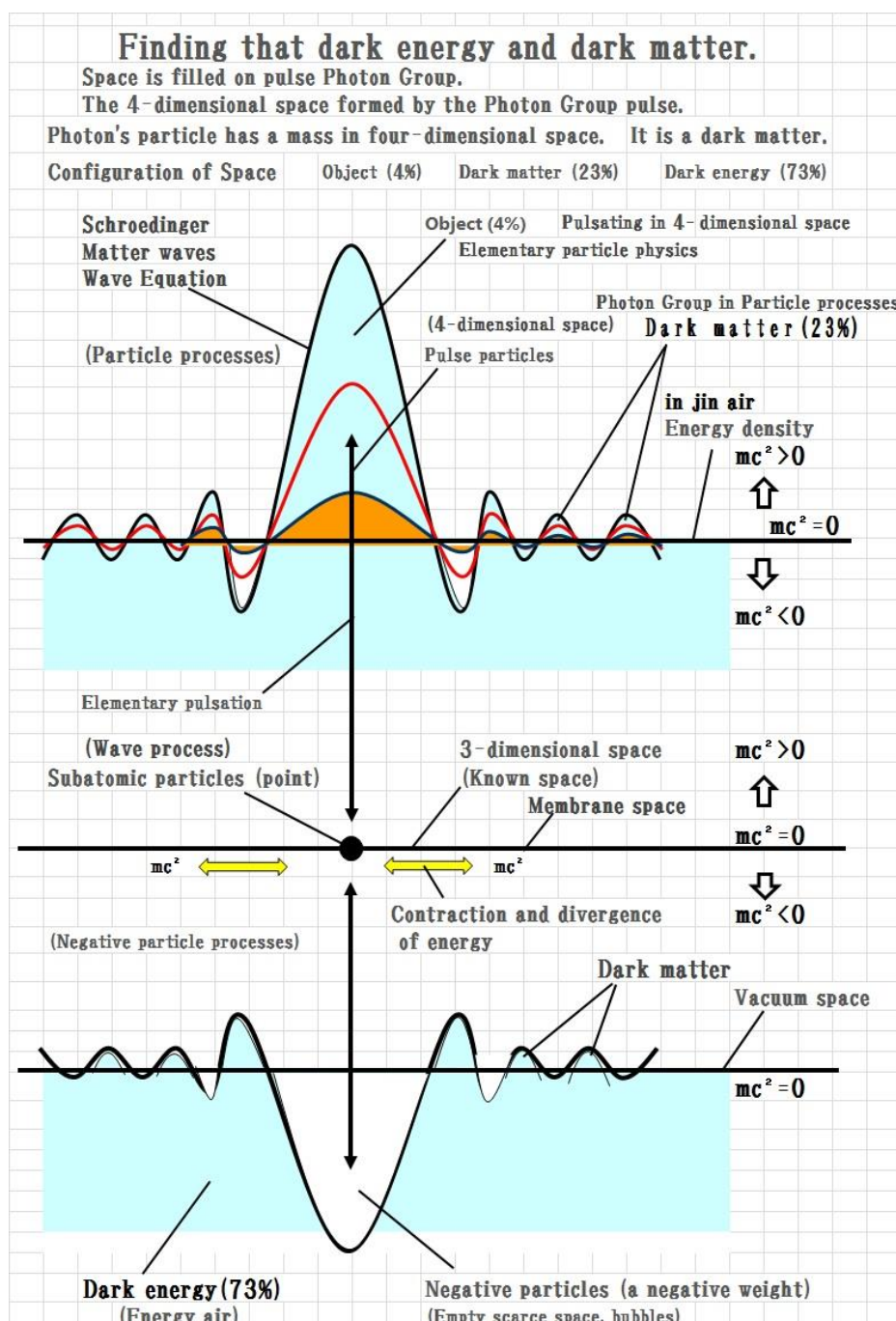
Or remain hidden five-dimensional due to more compact to very fine spatial concept, how a mathematician Klein explained.

* Look, particles, resident of the 3-d film universe we are moving only in the extra dimensions that we still. Such particles are really one great momentum running, in the form of the movement with great energy, i.e. kinetic energy. Format objects do not move according to the theory of relativity, energy is the mass of the object. Us looks heavier than normal particles particles for running extra dimensions of space in this way, particles are called Carter-Klein States.

Carter-Klein States could be dark matter in the universe; -Carter-Klein States of particles of us around in is everywhere, if it be a perfect candidate for dark matter.

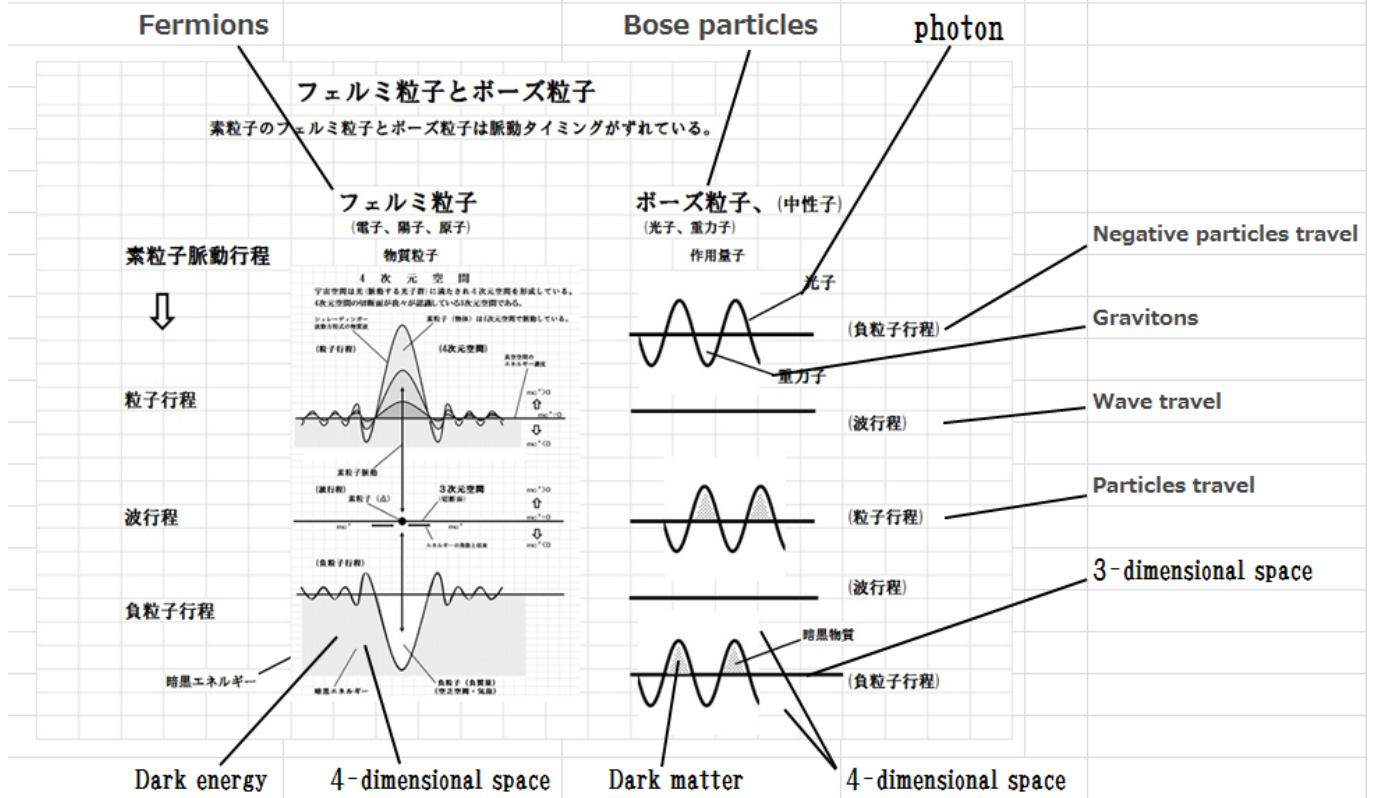
•• discovered dark matter equivalent to a perfect candidate

Dark energy exist in 4-dimensional space is equivalent to the Higgs field. Pulse Particle continues to zig-zag 4-dimensional space. Zig-zag amplitude of particle mass size and corresponds to the difficulty of the acceleration (mass). Formed any force of dark energy, electromagnetic, gravitational, nuclear, Higgs field etc will be unified as a wave of dark energy field. Sum of pulsating energy that corresponds to the quantum theory of the field was offset by positive energy and negative zero and infinity formula has eliminated, treated as point particles. Particle size (mass) show intermittently. Over geometric models of string theory, elementary particles 10-30 cm hyperfine levels of a quantum field theory is not in the particle size is working as a pimp. On elementary pulsation principle of model particle waves stroke the point does not have the size, and quantum field theory can be applied. Particle has an intermittent size in 4-dimensional space, more hopes than the thong model to vibration as possible in the geometric model of superstring theory.



Photon is a promising candidate for dark matter.

The hypothesis of subatomic particles.
Fermi and Bose particles are pulse timing is off.



[3] 暗黒物質の完璧な候補 出典 47)

* カルプラー・クライン空間

数学者カルプラーは、アインシュタインの一般相対性理論が通常の4次元時空ではなく5次元時空の場合にはどのようにはたらくかを研究した。彼が5次元の一般相対論の方程式を詳しく調べたところ、その方程式は4次元のアインシュタインの重力方程式と電磁気学のマクスウェル方程式を合わせたものと数学的に同じであることを発見した。

4次元の重力と電磁気を一緒にしたものは、5次元の重力と数学的に等価である。

数学者クラインは「超微細空間へのコンパクト化」の概念により、どのように5次元が隠されたままであるかを説明した。

* 3次元空間の膜宇宙の住人である我々には、余剰次元の中だけを動いている粒子は、私たちに静止して見える。そのような粒子は実際にはものすごい勢いで動いていて、運動という形式の大きなエネルギー、すなわち運動エネルギーを持つ。相対論によると、物体を動かさない形式のエネルギーは、その物体の質量である。このように、空間の余剰次元を動いているために私たちに通常の粒子よりも重い粒子に見える粒子は、カルプラー・クライン状態と呼ぶ。

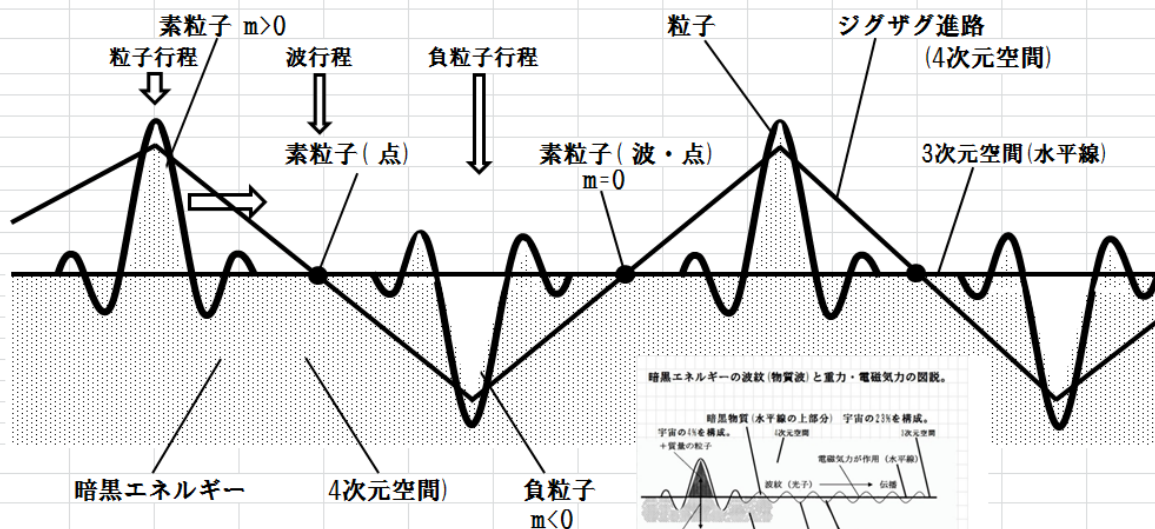
* カルプラー・クライン状態が宇宙の暗黒物質である可能性がある。・カルプラー・クライン状態の粒子が私たちのまわりのいたるところにあるならば、それは暗黒物質の完璧な候補である。

● 発見した暗黒物質は完璧な候補と等価

4次元空間に存在する暗黒エネルギーはヒッグス場と等価。脈動する素粒子は4次元空間をジグザクに進行する。ジグザグ振幅の大小が素粒子質量の大小となり、加速の困難さ(質量)に相当する。暗黒エネルギーはあらゆる作用力の場を形成し、電磁場、重力場、核力場、ヒッグス場・・・等は暗黒エネルギーの波の場として統一される。脈動する場のエネルギー総和は正エネルギーと負エネルギーとが相殺しあってゼロとなり、計算式の無限大が解消され、素粒子を点として扱う場の量子論に対応する。素粒子は断続的に大きさ(質量)を現す。超ひも理論の幾何学モデルでは、素粒子を 10^{-30} cm レベルの超微細なヒモとして扱っているが、大きさのある素粒子では場の量子論は扱えない。素粒子脈動原理モデルでは波行程の素粒子は、大きさを持たない点であり、場の量子論が適用できる。素粒子は4次元空間にて断続的に大きさを持ち、超ひも理論の幾何学モデルの候補として、振動するひもモデルよりも適していると期待している。

素粒子脈動原理が現すヒッグス機構

- * 素粒子は4次元空間の暗黒エネルギーの中を脈動しながらジグザクに進む。
- * 脈動によるジグザグ進行はヒッグス機構のジグザグに相当し、素粒子に質量を与える。
- * 暗黒エネルギーはヒッグス場に相当し、ジグザグの振幅の大小が質量の大小となる。



暗黒エネルギーの波紋(物質波)と重力・電磁気力の図説。

暗黒物質(水平線の上部分)宇宙の23%を構成。
 宇宙の1%を構成。 (2次元空間) (4次元空間)
 +質量の粒子 電磁気力が作用(水平線)
 波紋(光子) 伝導
 物質波
 重力が作用(光子空乏空間)
 暗黒エネルギー(宇宙の73%を構成)
 宇宙空間に充滿する光(光子群)が空間を歪めて重力を発生。
 宇宙の真空空間全域が物質波の山成分にて形成される暗黒物質に満たされ、その暗黒物質が空間を歪めて重力を発生させている。

暗黒エネルギーが真空空間のエネルギーと等価になる機構。

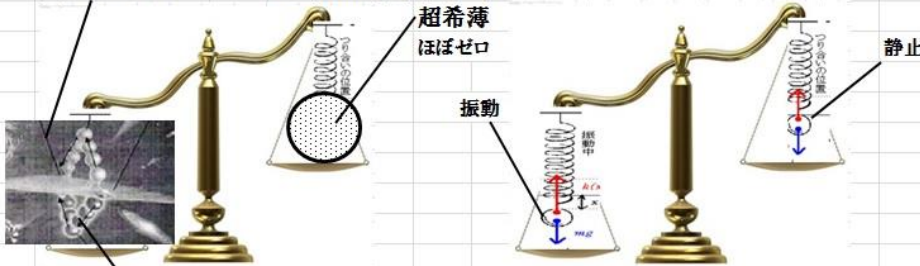
暗黒エネルギーの脈動により、運動エネルギー(質量)が120桁増加して既存の真空空間と等価。

120桁希薄なエネルギーでも、素粒子脈動により質量が増加して既存の素粒子質量になる。

- 1) エネルギー密度の差, 10^{120} 、120桁の差。 2) 振動による運動質量の増加、光速に近づくと無限大に近づく。特殊相対論

場の量子論で概算した真空エネルギー

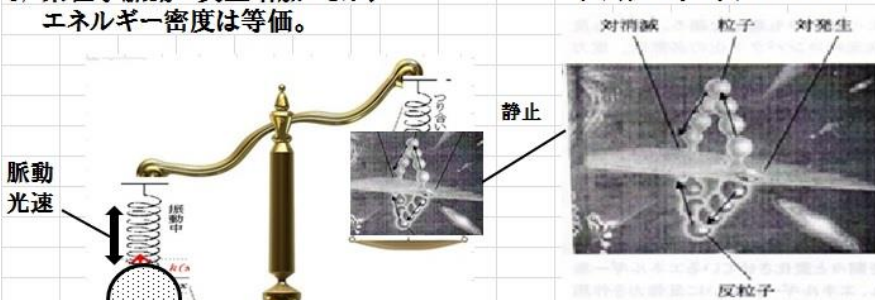
暗黒エネルギーの密度
1立方mに水素原子6個



仮想粒子が対発生・対消滅している。

- 3) 素粒子脈動の質量増加により、エネルギー密度は等価。

現代物理学の真空エネルギー



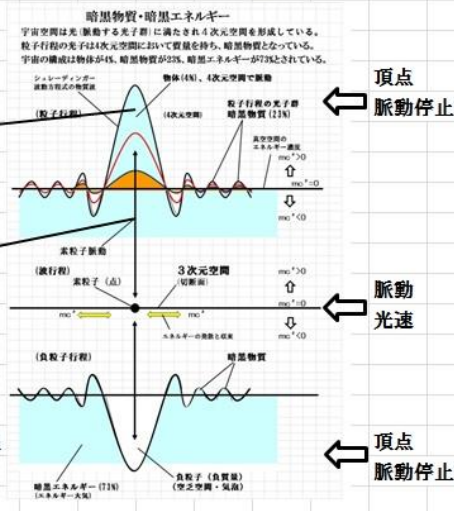
脈動する超希薄な暗黒エネルギー

粒子行程

素粒子脈動

波行程

負粒子行程



光は4次元空間で質量を持ち、暗黒物質の候補になりうる。

現在の物理学においては、光は光速で伝播し、質量はゼロであるとされている。

$E=mc^2$ の関係式によれば、質量とエネルギーとは等価であるとされる。従って、 $E/c^2 = m$ であり、エネルギーは質量を持っていると言える。

暗黒エネルギー脈動原理によれば、宇宙空間に満ちている光(光子群)は、4次元空間にてプランク時間で脈動している。質量ゼロ、エネルギーゼロの水平線として表した3次元空間の観測では、光の質量はゼロであるが、光子群が脈動して水平線から上下した成分は $\pm m$ の質量であり、光が4次元空間では質量を持つことを表している。

質量ゼロとされてきた光が質量を持つならば、暗黒物質の有力な候補となる。

先日、ノーベル賞の対象となったニュートリノの質量発見は、ニュートリノが暗黒エネルギーの最有力候補として期待されてきたものであるが、結果として宇宙の23%を占める暗黒物質としては総量が不足であり、暗黒物質ではないことが判明した。光が質量を持つならば、宇宙空間に満ちている光子群の総質量は

暗黒物質として十分な量となる可能性がある。

暗黒物質・暗黒エネルギーの候補

21世紀、宇宙物理学最大の謎、暗黒物質・暗黒エネルギーの探査が世界中の巨大な観測施設や観測衛星を駆使して日夜続けられている。暗黒物質・暗黒エネルギーの存在は100年前から予言され、探し求めて来たが未だに発見されていない。長年の宇宙観測や最新技術によりダークマター、ダークエネルギーの存在は疑うことの出来ない事実となっているが、発見されていない、最新宇宙論によれば、宇宙の構成は星やガス等の物体が4%、暗黒物質が23%、暗黒エネルギーが73%であるとされている。過去に候補となった暗黒の星や暗黒のガス、地球をも通過する素粒子等は、総量の不足から皆否定されている。

素粒子脈動原理が、その暗黒物質・暗黒エネルギーの候補を提供する。

素粒子脈動原理エネルギー波形図にダークマター、ダークエネルギーに相当する機構を発見した。素粒子脈動原理は宇宙空間を満たすエネルギー大気存在を根底として構築した物理理論の仮説である。エネルギー大気におけるエネルギー濃度の増減や波紋の変化として導かれる特性を素粒子脈動エネルギー波形図として現し、そこから導かれる物理によって構築した理論である。エネルギー大気の濃度レベルを真空空間として水平線で現し、エネルギー濃度の変化を物質波として現している。素粒子脈動により発生した物質波の波紋は光として無限遠に拡散し、宇宙空間を種々の波長の光が満たしている。素粒子脈動エネルギー波形図によれば、エネルギー大気は真空そのものであり、 $mc^2=0$ のレベルにある。透明な水の中の水玉が識別できないのと類似している。そのエネルギー大気が暗黒エネルギーではないだろうか。それは認識できず、あらゆる実験でも検出できない。しかし、その存在は宇宙の膨張や収縮に作用し、宇宙の73%を構成するのに十分な量を提供することが可能である。

さらに、素粒子脈動エネルギー波形図において、真空空間を現す水平線は我々が認識可能な 3 次元空間を現し、水平線の上下は 4 次元空間を現している。暗黒エネルギー(エネルギー大気)は 4 次元空間に属し、3 次元空間から観測することは出来ないが存在している。暗黒エネルギーの波は物質波の波紋であり、光として真空空間を光速で伝搬し、宇宙空間を満たしている。

光の波紋(物質波)は真空レベルを現す水平線の上下部分は 4 次元空間に属していて観測できないが 4 次元空間に実在している。物質波の水平線から上の部分は質量を持つ物体であり、暗黒物質(ダークマター)ではないだろうか。

それは認識できず、あらゆる実験でも検出できないが、その存在は重力を発生して星雲の運行に作用し、重力レンズ効果を発生させる。そして、宇宙の 23%を構成するのに十分な量を提供することが可能である。

素粒子脈動原理が、その暗黒物質・暗黒エネルギーの候補を提供する。

粒子脈動原理エネルギー波形図にダークマター、ダークエネルギーに相当する機構を発見した。素粒子脈動原理は宇宙空間を満たすエネルギー大気存在を根底として構築した物理理論の仮説である。エネルギー大気におけるエネルギー濃度の増減や波紋の変化として導かれる特性を素粒子脈動エネルギー波形図として現し、そこから導かれる物理によって構築した理論である。エネルギー大気の濃度レベルを真空空間として水平線で現し、エネルギー濃度の変化を物質波として現している。素粒子脈動により発生した物質波の波紋は光として無限遠に拡散し、宇宙空間を種々の波長の光が満たしている。素粒子脈動エネルギー波形図によれば、エネルギー大気は真空そのものであり、 $mc^2=0$ のレベルにある。透明な水の中の水玉が識別できないのと類似している。そのエネルギー大気が暗黒エネルギーではないだろうか。それは認識できず、あらゆる実験でも検出できない。しかし、そ

の存在は宇宙の膨張や収縮に作用し、宇宙の 73%を構成するのに十分な量を提供することが可能である。

さらに、素粒子脈動エネルギー波形図において、真空空間を現す水平線は我々が認識可能な 3 次元空間を現し、水平線の上下は 4 次元空間を現している。暗黒エネルギー(エネルギー大気)は 4 次元空間に属し、3 次元空間から観測することは出来ないが存在している。暗黒エネルギーの波は物質波の波紋であり、光として真空空間を光速で伝搬し、宇宙空間を満たしている。

光の波紋(物質波)は真空レベルを現す水平線の上下部分は 4 次元空間に属していて観測できないが 4 次元空間に実在している。物質波の水平線から上の部分は質量を持つ物体であり、暗黒物質(ダークマター)ではないだろうか。

それは認識できず、あらゆる実験でも検出できないが、その存在は重力を発生して星雲の運行に作用し、重力レンズ効果を発生させる。そして、宇宙の 23%を構成するのに十分な量を提供することが可能である。